

多くの点で南米大豆の史上最高の作柄が見込まれるが、物流に課題

今号の内容：

- 2ページ：成長する中国への食糧供給
- 4ページ：2013/2014年トウモロコシ輸出貨物品質レポート

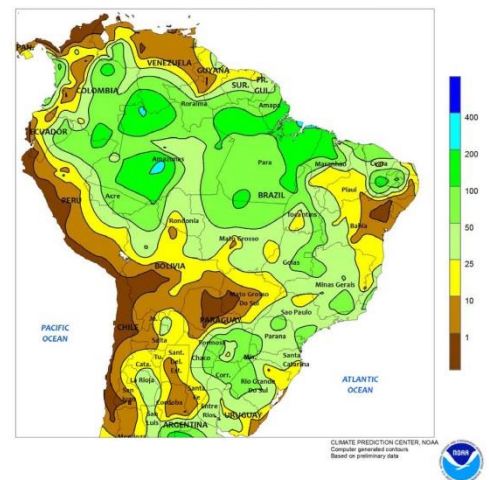
比較的気温の低い天候と十分な雨量が予想されることからブラジルとアルゼンチンでは引き続き良好な収穫が見込まれていますが、両国とも一部では高温で乾燥した天候が続いています。この地域は干ばつのために昨シーズンの生産量が激減し、今シーズンも同様の状況が懸念されていました。しかし、ブラジルでは第2期作（safrinha）トウモロコシの作付け早期に降雨に恵まれて懸念が薄らいでおり、アルゼンチンでは天候が好転したことにより作柄予想の悪化に歯止めがかかっています。大豆の作柄予想は両国とも良好ですが、トウモロコシの作柄予想は作付け時期の乾燥により過去の年度を下回る水準となっています。

史上最高の作柄見通し

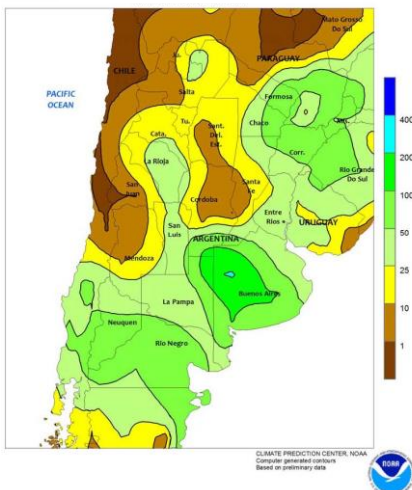
ブラジル地理統計院（IBGE）によると、ブラジルでは2013年の1億8,820万トンの大豊作に続き、2014年は史上最高となる1億8,940万トンの作柄が予想されています。このうち、トウモロコシ、大豆、コメが91.4パーセントを占め、大豆の予想収穫量の増加がトウモロコシの予想収穫量の減少を相殺しています。

ブラジル全国農業連盟によると、ブラジルは昨年、米国を抜き世界最大の大豆輸出国となりました。今後数カ月、ブラジルの大豆作柄に注目が集まる見込みです。大豆は通常より早めに収穫が始まり、1月末には約680万ブッシェルが出荷されました。ブラジル従来の出荷スケジュールより1カ月先行しています。

ブラジル
総降雨量（ミリメートル）
2014年3月30日-4月5日



アルゼンチン
総降雨量（ミリメートル）
2014年3月30日-4月5日



ブラジルの大豆作柄は昨年の8,200万トンから8,750万トンに増加する見通しですが、トウモロコシ作柄は昨年の8,100万トンから7,200万トンに減少する見通しです。シーズン早期の条件が大豆に適していたため、今年は昨年より180万ヘクタール多い2,950万ヘクタールに作付けされました。3月の降雨は2月の乾燥を緩和し、第2期作トウモロコシにはプラスに働きましたが、大豆は収穫を終えるのが遅くなりました。

アルゼンチンでは、トウモロコシ作柄が昨年の2,650万トンから2,400万トンに減少する見通しです。大豆作柄は2013年の4,940万トンから5,400万トンへの増加が見込まれています。これは大豆の生育条件改善により大豆の収穫面積が3.1パーセント拡大したためです。アルゼンチン中部の主産地での多雨により洪水に見舞われ、病虫害防除もままならず、夏作の水分含量レベルに対する懸念が高まりました。

3 ページの作柄概況を参照してください。

成長する中国への食糧供給

中

国経済の急成長により、特に富裕層の拡大とそれに伴う高タンパク食の需要を受けて、輸入の需要が増大しています。13 億人の、そして 2030 年までに 14 億人に達する見通しの人口規模では、食糧動向がわずかな変化でも、自家消費から商業生産に至るまで、食肉生産の拡大に必要な飼料用穀物にとって大きな機会を呼び込みます。たとえば、中国はすでに全世界の豚の頭数の半数を占める世界最大の豚肉生産国であり、同時に世界最大の豚肉消費国です。

需要に対応

中国は穀物の国内生産拡大では追いつかない需要増への対応を迫られており、今後 10 年間で粗粒穀物の輸入が倍増する見通しです。主として土地および水に制約があることと土地を維持する労働力の調達にも制約があることから、中国国内の穀物生産能力はすでに限界に近づいています。

食糧の輸入は不可欠となっていることから、米国、ブラジル、アルゼンチンなどの主要穀物輸出国は食糧の安全性、安全保障、持続可能性という相互目標の達成を支援するために中国とパートナーシップを構築しています。全米トウモロコシ生産者協会のバイオテクノロジー・経済分析担当ディレクターであるネイサン・フィールズ氏は次のように述べています。「米国はトウモロコシの生産を拡大し続けており、さらに多くの輸出市場を開拓したいと考えています。市場として、中国はトウモロコシの輸入について大きな潜在可能性を持っています。私たちは中国と協力することにより、中国が安定した輸入国になるでしょう」

バイオテクノロジーの価値

需要を満たす上で極めて重要なハードルには、バイオテクノロジーの安全性と有用性について中国の国民の理解の促進や、そうした技術を承認することの重要性についてのコミュニケーションがあります。この点は、MAIZALL (International Maize Alliance) を通じて主要穀物輸出国によって強調されています。MAIZALL では加盟団体がグローバルな連携を図り、食糧安全保障、バイオテクノロジー、スチュワードシップ、貿易、生産者イメージに関する重要問題に対処しています。

中国ではバイオテクノロジーの採用が穀物輸入に関しての重要な問題になっていますが、バイオテクノロジーの重要性を巡るコミュニケーションを継続して輸出国と意見をすり合わせ、供給問題の解決を図ることは絶対に必要です。「私たちは貿易が阻害されないように市場としての中国との協力を希望しています」とフィールズ氏は述べています。

「外国の市場で問題が起こったときは、痛みをこらえてその問題に取り組むことが重要です」とアメリカ穀物協会のエリック・エリクソンは指摘し、次のように述べました。「主要輸出国の間には協力意識が高まっています。また、協力関係を築き、科学に基づきバイオテクノロジーの価値を認めることによってバイオテクノロジー問題の解決を図る取り組みも強化されています」

パートナーシップの醸成

相互に利益となる貿易関係を築くために、中国と米国は第 24 回米中合同商業貿易委員会 (JCCT) を 2013 年 12 月に開催しました。貿易・投資問題の解決を図るフォーラムでは、バイオテクノロジーの受け入れを含む米中間の懸案事項が明らかになりました。その中で、中国のバイオテクノロジー承認プロセスの円滑化の支援、バイオテクノロジー審査のパイロット・プログラムの導入、ならびに農業分野における科学・技術面での協力を図るための覚書の提案について、米国のコミットメントを強調しました。

このような取り組みでは、中国とのよりオープンで透明な貿易に欠かせないコミュニケーションを強化しながら、中国と輸出国との将来的な協力の基礎を固めているのです。◆

作柄概況 ... 1 ページの続き

物流の障害

大豊作が見込まれているにもかかわらず、特にブラジルでは依然として物流が継続的な課題となっています。ブラジルではトウモロコシと大豆を輸出するために主産地のマツグロソから沿岸の港まで何千マイルも輸送しなければなりません。

ブラジルは、アマゾン川とその支流の埠頭、はしけ、ターミナルへのインフラ投資を通して大豆その他の穀物の輸出力増強を目指しています。ブラジル北部および中部の大豆生産者は収穫した大豆をトラックに積み込み、整備されていない道路を通ってブラジル南東部の過密な港まで運ばなければなりません。輸送コストは高く不明確です。すなわち、収穫した大豆は混雑したターミナルでの荷下ろしを待ちながら数週間から3カ月ほどの間、トラックに積み込まれたままになることもあります。このインフラ整備案は、大豆やその他の穀物をアマゾン川に沿って北部の港まで運ぶことについて、より経済的な選択肢を生産者に提供するでしょう。



この総額 25 億ドルのプロジェクトにより、河川ルートと北部の港がブラジルの主要輸出センターとなり、最終的には輸送コストが半減すると同時に輸出能力が年間 3,000 万トン増加することが期待されています。一方で、プロジェクトはグリーンピースなどの、新たなインフラの整備がアマゾン川流域の熱帯雨林で違法森林伐採を活発化させると懸念している活動家団体から反対を受けています。

積極的な見通しにもかかわらず、10年を超える投資期間に対する不安もあります。また、対応能力増強のために南東部の港にはすでに公的資金が投下されており、そのため北部の港のルートに集中して取り組むことができなくなる可能性があります。今のところ、この新プロジェクトは出荷の懸案事項の即効策とはみなされていません。

こうしたことから、ブラジル北部・中部のトウモロコシおよびソルガム生産者は余剰となっている夏季作物について他の選択肢を探しています。この時期の価格下落は、ブラジルの製糖工場やエタノール工場の関心を集めており、ミリング工程を改造して通常は工場閉鎖期間であるサトウキビのオフシーズンに、トウモロコシやソルガムからエタノールを生産可能にするための投資を呼び込んでいます。これらの投資は、高額にはなるものの、短期で実行可能な解決策とみなされています。◆

2013/2014 年トウモロコシ輸出貨物品質レポート ト発表

アメリカ穀物協会は待望の 2013/2014 年トウモロコシ輸出貨物品質レポートを発表しました。このレポートは米国産トウモロコシの品質を輸出の積み地で評価しています。トウモロコシの購入決定を下す世界中のバイヤーの皆様にとって極めて重要な資料であり、信頼できる透明性の高い情報を国際市場に提供しています。

アメリカ穀物協会 2013/2014 年トウモロコシ収穫時品質レポートと併せてご覧いただくと、トウモロコシの収穫時から輸出時までの品質の変化がわかり、バイヤーの皆様の詳細な情報に基づく購入決定を下していただけます。両レポートでは前年比のトウモロコシの品質動向を示すために、直近 3 シーズンの比較を提供しています。

品質良好の見通し

全般的にトウモロコシの品質は収穫後も良好な状態を維持しており、サンプル集計の平均品質はすべての等級ファクターにおいて **U.S. No. 2** の基準を上回っています。平均容積重は **57.3** ポンド/ブッシェル (**73.8** キログラム/ヘクトリットル) で昨年と比べて軽いものの、平均水分含量は **14.5** パーセントと昨年より増えています。

総損傷 **1.7** パーセントおよび破損粒と異物 (**BCFM**) **2.9** パーセントの数値は収穫時から上昇しています。これは保管中や輸送中に生じたものと予想されます。ストレスクラックの発生も増加していますが、過年度より水分含量が増加していることから、ストレスクラックはおそらく人工乾燥に起因するものと思われる。しかしながら、今年のサンプルから、供給されるトウモロコシの大半について取扱中の破損が低いことが見込まれます。

数値は引き続き良好

サンプルの化学組成は収穫時に検査したサンプルからほとんど変化していません。タンパク質含量は昨年の **9.2** パーセントから **2011/2012** 年並の通常の水準である **8.6** パーセントに戻りました。

予想どおり、タンパク質の傾向とは反対に、デンプン含量は **73.7** パーセントと昨年よりは高く、**2011/2012** 年のシーズンより低い値となりました。油分含量は前年並みの **3.7** パーセントでした。



2011/12 で調査した 379 サンプル中 46 サンプルの結果は、2011/12 で用いた分析方法は今年のレポートで選択したカテゴリーに入れることができないため除いてある。しかしながら、46 サンプルすべてが FDA の規制レベルである 20ppb 以下であった。
Source: 2013/2014 Corn Export Cargo Quality Report

輸出向けトウモロコシのマイコトキシン検出率は収穫時と同様に極めて低い水準を維持しています。検査したすべてのトウモロコシ・サンプルにおいて、アフラトキシンは **FDA** の規制レベル未満であり、**DON** (デオキシニバレノール) は **FDA** の勧告レベル未満でした。特に **2013/2014** 年のシーズンには、検査したサンプルのうちアフラトキシン **5 ppb** 未満が有意に高い割合を占め、サンプルの **95** パーセントは **DON** が **0.5 ppm** 未満でした。

レポートの全文はアメリカ穀物協会の Web サイト (grains.org) でご覧いただけます。◆